

環境経営レポート

＜2023年度版＞



活動期間： 2023年4月1日～2024年3月31日

発行日： 2025年3月28日

目次

1. 組織の概要	1P
2. 対象範囲	1P
3. 実施体制	2P
4. 環境経営方針	3P
5. 環境経営目標	4P
6. 環境経営計画	5P
7. 環境経営目標の実績と評価	6P
8. 環境経営活動の結果と評価・次年度の取組	7P
9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反訴訟などの有無	8P
10. 代表者による全体評価と見直し・指示	8P

1. 組織の概要

1 名称及び代表者名

事業所名 株式会社 長野レジン
代表取締役 西澤 文康

(2) 所在地

本社・工場 386-1541
長野県上田市上室賀1518
塩田工場 386-1436
長野県上田市前山109番地1

(3) 環境管理責任者・連絡先

責任者 工場長 西澤 宏幸
連絡先 TEL : 0268-31-3888
Fax : 0268-31-3826
E-mail nagano-r@sirius.ocn.ne.jp

(4) 事業内容

プラスチック製品の製造

(5) 事業の規模

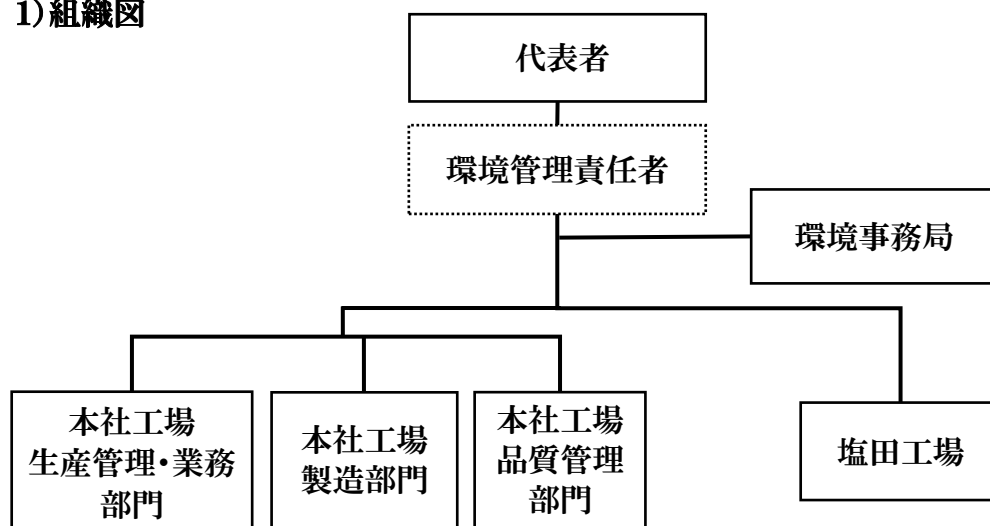
創業 1975年11月1日
資本金 1,000万円
売上高 25,213万円
敷地面積 3,700㎡
従業員 19 人

2. 対象範囲

全組織・全活動・全従業員が対象である
事業年度:4月～3月
レポート対象期間2023年4月～2024年3月

3. 実施体制

1) 組織図



※ 各テーマ別のグループを結成、責任者を任命して、改善活動を推進

2) 責任及び権限

代表者	- 環境経営システムに関する全ての責任と運用についての権限を持つ。 - システムの構築・運用及び管理に必要な資源を用意する。 - 環境経営方針の設定・見直し及び従業員へ伝達を行なう。 - 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施する。
管理責任者	- 代表者に代わりシステムの構築・運用状況を監視、結果を代表者に報告する。 - 環境関連法規等の取りまとめを行い、遵守状況をチェックする。 - 環境経営目標を設定し、環境活動計画を確認し承認する。 - 問題点の是正・予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行う。
事務局	- 環境管理責任者の補佐、推進委員会の事務局。 - 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェック原案の作成。 - 環境経営目標・経営計画原案の作成及び実績の取りまとめ - 環境経営レポートの作成、公開（社内に備付けと地域事務局への送付） - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口。
部門責任者	- 自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施。 - 特定された項目の手順書作成及び運用管理。 - 緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練の実施と記録。 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	- 環境経営方針、環境経営目標を基本に定められた活動計画に従い業務を遂行する。 - 環境負荷の低減、品質向上、安全の確保と業務改善の提案 - 異常時、緊急時の報告

環境経営方針

《基本理念》

私達は、「地域と共生し、地球環境にやさしい工場」、小さな事から始め、大きな結果を得るプラスチック製造工場を目指します。

1. 材料発注から製品出荷までの工程内において、すべての資源を含め無駄を省き、全社員の英知を結集して環境マネジメントシステムの継続的改善、環境汚染の予防に努めます。
2. 環境関連の法規および地域・業界団体の協定を遵守します。
3. 省エネルギー、省資源および廃棄物の削減に配慮した環境目的・目標を掲げ全社的な目標とします。
4. 全社員への教育と啓発活動により環境保全に対する環境意識の向上を図ります。

制定日 2021年7月10日

株式会社長野レジン

代表取締役 西澤文康

5. 環境経営目標（中長期）

4月～3月

項 目			単 位	基準値(2020年)	2021年目標	2022年目標	2023年目標	2024年目標
二 酸 化 炭 素 削 減	CO2排出量		kg-CO2	216,672	214,505	212,339	210,172	208,005
			(%)	100%	99%	98%	97%	96%
	電力		kWh	45,922	45,463	45,004	44,544	44,085
	軽油		ℓ	2,675	2,648	2,622	2,595	2,568
	ガソリン		ℓ	4,262	4,219	4,177	4,134	4,092
	灯油		ℓ	1,297	1,284	1,271	1,258	1,245
	LPG		m ³	341	338	334	331	327
	一般	可燃ごみ	kg	100	100	100	100	100
	産 廃	廃プラスチック	kg	6,210	6,148	6,086	6,024	5,962
水 削 減	水使用量		m ³	219	219	219	219	219
			(%)	100%	100%	100%	100%	100%

中部電力㈱ 2019度 二酸化炭素調整後排出係数 0.426kg-CO2/kWhを使用

6. 環境経営計画

(1) 二酸化炭素削減について

電気使用量の削減	節電の徹底	→ 成形機・ホッパードライヤー・金型温度調節器等のヒーターを長時間使わないことが事前に判るときは、電源を切る。また、ポンプモーターも使用時と作動油昇温時以外はこまめに停止する。
	成形条件の設定の適正管理	→ 成形条件の条件出しは、負荷低減の為、型締め・射出圧力は低い設定から始めるように心掛ける。また、射出圧力低減の為、成形開始時は金型のPL面の清掃を行う。
	省エネ設備の導入	→ 電気使用量の削減の為、生産設備等の更新は、消費電力を抑える省エネ設備の導入を推進する
	OA機器適正管理	→ 未使用時電源オフ・節電モードの徹底
	エアコン温度管理の徹底	→ 夏季26℃～28℃ 冬季20℃～22℃
	退社時電源チェック	→ 目視確認

※対象車両は営業用車両2台と許可取得済み(P5)車両とする

ガソリン、軽油使用量の削減	エコドライブの実施	→ 急発進・急停止排除、経済速度の励行
	アイドリングストップの実施	→ エンジン停止、空ふかし排除
	車両管理の徹底	→ 車両点検、適正空気圧、エンジンオイル等の管理
	運行管理の徹底	→ 最適運行最短距離の選択

灯油使用量の削減	灯油ストーブ温度管理の徹底	→ 冬季20℃～22℃
	退社時電源チェック	→ 目視確認(最終退出者と同伴者)

廃棄物排出量の削減	混合廃棄物の分別と再利用の促進	→ 粉碎使用できるランナーは、可能な限りリサイクル使用する。廃プラスチックの産業廃棄物と有価物の分別を確実にを行う
-----------	-----------------	---

(2) 水使用量の削減 節水の徹底 → 清掃時、手洗い時節水を各自に行う

7. 環境経営目標の実績と評価

		4月～3月				4月～3月				4月～3月	
項目		基準値 (2020年度)	2021年度 目標値		2021年度実績	2022年度 目標値		2022年度実績	2023年度 目標値		2023年度実績
CO2総排出量 (kg-CO2)		216,672	99%	214,505	249,960	98%	212,339	229,828	97%	210,172	237,380
電力*1 (kWh)	購入電力	459,222	99%	454,630	541,525	98%	450,038	548,863	97%	445,445	522,946
	排出量	195,629		193,673	239,690		191,716	208,019		189,760	212,316
軽油 (L)	使用量	2,675	99%	2,648	2,814	98%	2,622	2,768	97%	2,595	2,986
	排出量	6,901		6,832	7,260		6,763	7,142		6,694	7,705
ガソリン (L)	使用量	4,262	99%	4,219	3,975	98%	4,177	5,036	97%	4,134	5,099
	排出量	9,888		9,789	9,221		9,690	11,684		9,591	11,831
灯油 (L)	使用量	1,297	99%	1,284	800	98%	1,271	857	97%	1,258	1881
	排出量	3,230		3,198	1992		3,165	2133		3,133	4684
LPG(kg)	使用量	341.00	99%	337.59	266	98%	334.18	283.18	97%	330.77	282
	排出量	1,024		1,014	797		1,004	850		993	845
上下水道 (m³)	購入水道量	219	100%	219	268	100%	219	319	100%	219	294
産業廃棄物	廃プラスチック	6,210	99%	6,148	4,240	98%	6,086	4,800	97%	6,024	7,380

2023年度実績の評価

- (1) 電力
既受注品の受注増により生産量が増加し、工場の稼働率が上がった為成形機及び周辺機器等の電力使用量が増加した。
- (2) 軽油・ガソリン
昨年度同様に近隣の客先の受注量の増加に伴って、自社のトラックでの配送する物量が増え購入量が増えてしまった。
ガソリンに関しては、コロナ感染症が5類に移行し営業訪問が段階的に増えてきたために使用量は若干の増加傾向となった。
- (3) 灯油・LPG
受注が増えたことで夜勤による生産が増えてしまった為、夜勤中の暖房の使用時間が増えてしまい灯油の使用量が大幅に増加してしまった。
LPGは昨年度とほぼ同じ使用量ではあったが、目標値はクリアした。
- (4) 上下水道
夏期の猛暑により為、クーリングタワーからの揮発する水量が増加した為、使用量が増加した。
- (5) 産廃
受注量の増加で生産量が増えたことに伴い、型替え時に出る廃プラの量が増加した。また、倉庫の材料・製品の不動在庫の整理によって排出された分が加わり、廃棄物の量が増加した。

8. 環境経営活動の結果と評価、次年度の取り組み

◎よくできた ○まあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

	活動計画	取組の結果	評価	次年度の取組
二酸化炭素排出量の削減	・電気使用量の削減(基準年比1%削減)	成形機1台を、省エネ効果が期待できる設備に更新出来たが、結果的には全体の稼働率の増加により目標達成は出来なかった	×	省エネタイプの設備導入は継続して推進したい。また工程内で発生するロス率の低減化に取り組み、無駄となっている電気使用量を抑える
	・不在時の消灯	日勤・夜勤を通して不必要な場所の消灯を心掛けた	◎	継続して不必要な場所の消灯を推進する
	・エアコンの温度設定冷房28度、暖房20度	冷暖房の設定は概ね達成出来た	○	今後も継続して取り組みたい
	・待機電気機器のスイッチ節電	工場内の圧縮エアの配管等のエア漏れの点検を行い、エア漏れの改善に努められた	○	機械の立ち上げ時の加熱筒ヒータースイッチを、立ち上げ順に合わせて順次ONするように心掛ける
	・ガソリン使用量の削減(基準年比1%削減)	営業訪問の回数増加に伴って使用量が若干増加してしまった	△	今後も継続して取り組みたい
	・社用車の日常点検	半年点検を実施した	◎	継続して取り組みたい
	・軽油使用量の削減(基準年比1%削減)	昨年度に引き続き、自社便による物量が増大した為増加してしまった	×	出来る限り配送経路、配送順の見直し等行い効率化を図り使用量を削減できるように継続して取り組みたい
	・エコドライブ10の実施(急の付く運転禁止)	マニュアルの掲示を行ったことで、運転者が意識するようになった	○	マニュアルの掲示を継続し、全社員で意識をもって継続したい
	・適性時期のタイヤ交換(夏/冬、摩耗)	適正時期のタイヤ交換が実施出来た	○	次年度も天候等に配慮しながら継続して取り組みたい。
廃棄物削減	・灯油使用量の削減(基準年比1%削減)	夜勤の生産時間が増加した為、暖房の使用時間が増加し使用量が多くなってしまった	×	温度設定を再度見直し、無理のない範囲で継続して節約に取り組みたい
	・産業廃棄物の削減(基準年比1%削減)	受注増で生産量が増加し、型替え時の廃プラの増加と、不動在庫の整理による廃プラの発生で増加してしまった	×	不良品の低減を推進と、樹脂替えの際のバージを適正に行い、廃プラを抑制に取り組む
	・分別と再生利用の促進	可能な限り分別に努め再資源化の促進をした。昨年同様、樹脂原料の紙袋がリサイクル可能な業者を見つけれず、焼却処分となってしまう	○	今後も継続して取り組みたい。紙袋が再資源化可能な業者選定を継続して取り組みたい
	・計量と分別状況の点検	分別してリサイクルに回すことができた	○	今後も継続して取り組みたい
用水	・ゴミ箱周辺の見回りチェック	分別出来るようにゴミ箱を種類別に設置しリサイクルに心掛けた	○	今後も継続して取り組みたい
	・水使用量削減(基準年比1%削減)	クーリングタワーからの揮発量が多かった為使用量が増加してしまった	×	今後も継続して、クーリングタワーから冷却水が蒸発する対策について検討していきたい
	・節水ラベル貼付	節水ラベルの作成、貼付を実施した	○	今後も継続して節水に取り組みたい
	・洗車頻度の見直し	洗車頻度の見直しをし、汚れが少ない場合は、無駄に洗車を行わないようにした	○	今後も継続して取り組みたい

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価、並びに違反及び訴訟の有無

(1) 当社に適用される法規制等と現在までの遵守状況

当社の業務に適用となる義務規定(一部それ以外を含む。)の主な環境関連法規等とその主な内容、

注)チェック欄…○:遵守 ×:不遵守 √:該当なし確認 (一:判断なし)

法規制等の名称	適用される事項 (施設、物質、事業活動)	証拠書類、等	判定
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属くず、廃プラ、廃油等)の適正処理	契約書・許可書	○
		(電子)マニフェスト	○
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易点検	点検記録	○
騒音防止法	空気圧縮機 (3.7Kw/5.5kw/7.5kw)	届出書	✓
振動規制法	空気圧縮機 (3.7Kw/5.5kw/7.5kw)	届出書	✓
消防法(危険物)	消防署への届出、灯油の防油提、	現地点検記録	✓

(2) 違反及び訴訟の有無

上記環境関連法については、遵守チェックリストにより、確実に法規を遵守していることを確認しました。

また、過去3年間、関係各機関から特に指摘・指導は無く、訴訟もありませんでした。

10. 経営者の見直し評価と指示

【取り組みの概要】

生産設備の省エネ化の推進で、射出成形機の更新で従来の油圧式射出成形機から、省エネ効果の期待が出来る全電動型射出成形機に1台の更新を行った。8月の更新で今期中は全体の稼働率の増加もあり、設備更新による電気使用量の削減は効果の確認が出来なかったが、来期に期待したい。また、電気以外のエネルギーも増加したものが多数となっている為、次年度対策の検討が必要。

【取り組みの評価】

プラスチックの射出成形は全体の7割以上が電気でのCO2排出量となる為、生産量の増減で結果が大きく変わります。日常の節電対策の取り組みも継続して更なる努力も必要であるが大きく節電効果が得られる、生産設備に対する対策の検討と実施が必要である。

【今後の取り組み】

設備更新した全電動型射出成形機でどれほどの節電効果が得られるか検証し、今後の省エネ設備の導入の検討を推進する。